

心身再生の郷

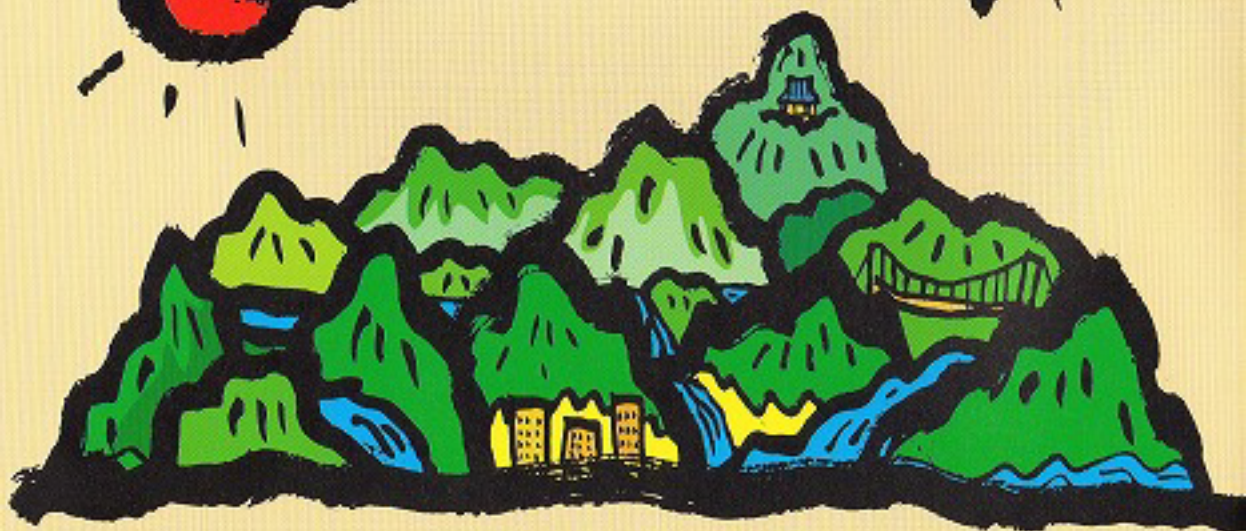
十津川村

ゆったりと流れるたっぷりの時間を思う存分、お楽しみください。

元祖！
源泉かけ流し
温泉

“十津川温泉郷”

ゆったりくつろぎ、自然に帰る
ほっとする、心のふるさと



奈良県 十津川村

役の行者も空海も 修行に立ち寄った聖地 熊野三山の奥の院。



十津川村の東南、大字玉置山頂の標高10776mの名山、玉置山。古くから聖地として聞け、多くの史実を有し、また動植物も豊富です。頂上は細細の連山が一壁に開け、晴天の日には、遠く熊野の沖が望めます。玉置換界には花折塚。頂上近くには、上平王祝墓碑・勅業山記念碑。標高1



1000メートル以上の樹高にわたる巨木が数多く生息しているのは、極めて珍しいこととされ、神代杉及び杉の巨樹群は世界遺産の天然記念物に、大杉は国指定木十数の一に選ばれています。

りりりあたりには玉置神社・社務所・出雲大社教社殿、神楽殿など、歴史を秘めた史跡や古い建物などがあり、多くが村・県・国の文化財や県の自然環境保全区域に指定されています。昭和58年玉置山は「日本の森林浴百選」の一つに選ばれました。

神代杉と杉の巨樹群

玉置神社境内内の巨杉群には神代杉・常緑杉・髭余杉・大杉など、周囲8〜10m、高さ30〜50mに達するものがあります。本殿の真後ろあたりの神代杉は樹齢3000年といわれ、宿り木が群生し、その名にふさわしい風格を醸えています。



玉置神社 社務所

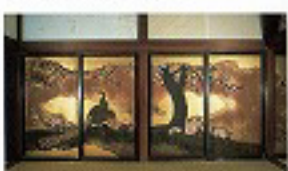


玉置山



熊野宮・文化財 天然記念物 樹状如石

玉置神社の境内には、流石の巨木が数多く生息しているのは、極めて珍しいこととされ、神代杉及び杉の巨樹群は世界遺産の天然記念物に、大杉は国指定木十数の一に選ばれています。



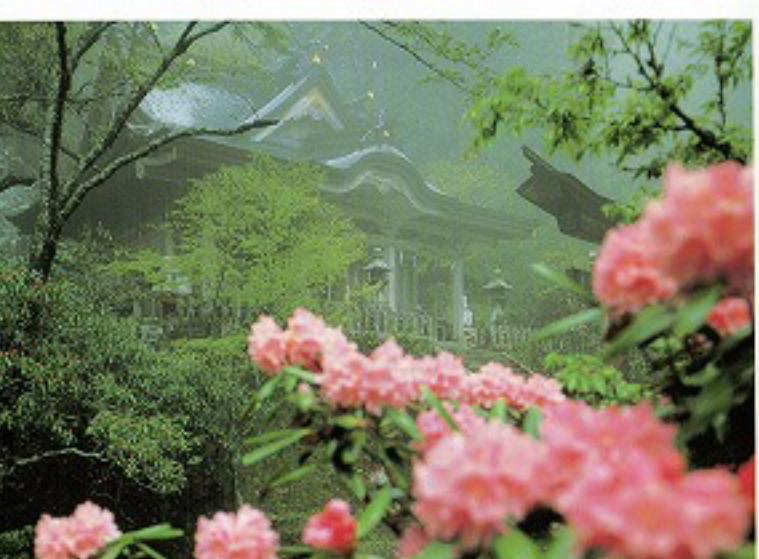
玉置神社 本殿

玉置神社の社務所の裏庭の辺りには、一軒一軒、六十餘軒あり、熊野の古風な町並み、熊野の町並みとして、景観が美しく保たれています。



玉置神社 社務所

玉置神社の境内には、流石の巨木が数多く生息しているのは、極めて珍しいこととされ、神代杉及び杉の巨樹群は世界遺産の天然記念物に、大杉は国指定木十数の一に選ばれています。



玉置神社

はりつめた空気が漂う 自然と文化の宝庫

玉置神社

玉置山の頂上近く、標高1000m付近に鎮座する玉置神社は、第十代崇神天皇の時代に王城火防鎮護と患神退散のため、創建されたと伝えられています。本殿は高山の山中には珍しく豪壮な入母屋造りで総檜材。祭神は国常立尊(タニトコタチノミコト)、伊弉諾尊(イザナギノミコト)、伊弉册尊(イザナミノミコト)、天照大神(アマテラスオホミカミ)、神日本磐余彦尊(カムヤマトイワレヒコノミコト)です。

大峯山を根本中堂とした修験道の十番目の行場として行者の往来も盛んで、境内には、本殿の後、攝社・末社・神楽殿などがあります。本社の例祭は例年10月24日に行われ、攝社の初午祭は3月に

玉置神社の境内一門は村の史蹟に指定されており、本殿は県の有形文化財に、社務所及び台所は国の重要文化財に指定されています。

体を癒し心を和ませる 古道と温泉の郷



十津川温泉
二津野ダムは日本一のオランダ風を誇り、毎年春になると多くのオランダ人が訪れます。



温泉街（左）温泉・橋梁の軒並み
個性あふれる風景



町歩きが存じの温泉

お風呂があり、人気を呼んでいます。
飲食や足湯が楽しめる公衆浴場
十津川温泉「庵の湯」
十津川温泉「庵の湯」は、奈良県第一号の
温泉場と足湯、男女の内湯を備えた全て
「源泉かけ流し」の温泉を利用して、
施設からは目の前に広がるエメラルドグリー
ーンの「津野ダム湖畔」が一望でき、ゆつくりと
長い時間ここで過ごすことができます。

十津川温泉「庵の湯」
営業時間 AM10:00～PM9:00
毎週水曜日休
料 金 大人400円/小人200円
TEL 0746-64-1100
※当温泉をご利用の際は、村営駐車場を
ご利用ください(300円/時間)



憩のエリアDATA

二津野ダム遊歩の温泉
十津川温泉
元禄年間(1695)に炭焼き職人が発見したといわれる下湯を源泉とし、昭和38年十津川温泉ができました。
ここは古くから村の南の中心地として栄えてきましたが、温泉の開発により、十津川村で最も多くの旅館や商店が集まり賑わう、村内最大の街になっています。

温泉かけ流し
十津川温泉「70度」
泉質：ナトリウム硫酸水素塩泉
効能：きりきず、火傷、リニウマチ性疾患など

わらび公衆浴場
営業時間 PM4:30～PM9:00
毎週水曜日休
料 金 大人200円/小人100円
TEL 0746-64-0118

南郷老人憩の家
営業時間 AM10:00～PM9:00
無休
料 金 大人200円/小人100円
TEL 0746-64-0043



温泉かけ流し
上湯温泉「85度」
泉質：ナトリウム硫酸水素塩泉
効能：皮膚病、神経痛、消化器疾患など



大自然の中、しつとり落ち着いた秘湯、上湯温泉
十津川温泉より和歌山県田辺市龍神村に向かう国道沿いに十津川線沿いにある上湯温泉は、十津川温泉から西へ約5kmの上湯川上流に湧く温泉。
享保年間(1726)に里人が見つけたといわれる大自然の中に静かに開ける秘湯です。
この温泉は、旅館・民宿の露天風呂に利用されています。



山奥の奥山に合った秘湯というイメージの上湯温泉

泉の郷

泉の郷は、温泉・自然を満喫できる。サウナや温泉プール、多目的野外クレーン、豊富な宿泊と訪れる楽しみが満載。新わら温泉保養館「星の湯」



つづくりもはてなし坂や五月雨 向井去来(泉鏡)

十津川の南端、細歌山界との果境を東西に走る果無山脈。この山脈の東端を越える街道は、古くから紀州との交通の要として、熊野三古道のつ小路(高野街道)と呼ばれていました。この街道を通過して果無山を越え、或いはこの山を遠望し、この山に思いを馳せた古人は、夫々の感情を歌に託しています。

見渡す山の
はるばると 見渡す山の
かすみのあなただ
はてなしの家

雲を踏み 風を攀じて
御旅野の 果無し山の
果てもみしかな

伴林光平
「南山路雲緑」の著者

十津川路七色(観光案内所)
奈良県最南端の集落が、大字七色地区。国道168号沿線の二津野ダムを見下ろす景観の地に建ち、村内の観光案内や村産製品の物産販売などを行っています。また、崖の上でゆっくり旅の疲れを癒すことができます。

泉の郷

70℃の良質天然温泉で心も体もリフレッシュ!

温泉保養館「星の湯」のゆたかりとした内湯、緑の中の露天風呂、疲れた体に心地よい打たせ湯、サウナなど、肌によさしい良質の温泉は、心も体も元気にしてくれます。

四季の景色を楽しみながら年中泳げる温泉プール
十津川温泉のお湯を利用した日本でもめずらしい温泉プールです。明るくユニークな建物には温泉の成分に適した松の集成材を使用体力づくりと美容効果をかねた健康いっばいの施設です。25m6コースのプールと幼児用の浅いプールがあり、ファミリーでも楽しんでいただけます。



温泉保養館「星の湯」
開館時間
PM12:00～PM5:00
(12:20～1:40PM5:00は)
PM4:00～21:00
料金 大人300円/大人400円

温泉プール
開館時間
AM9:00～PM6:00
(12:20～1:40PM5:00は)
休 業 日
2月13日(祝)2月14日(祝)
料金 大人300円/大人400円

緑色の風の中、ありつたけの自然を満喫
芝生が美しい広大な多目的グラウンドでは、ボール遊びやバドミントン、各種レクリエーションが楽しめます。野外ステージで行われるイベントなどには多くの人で賑わいます。又、人力ロープウェイ「野嶺」はスリル満点。渓流での川遊び、魚釣りなど自然の遊び満載のエリアです。



道の駅のほかに、十津川温泉から上流温泉へ向かう川沿いにも「野嶺」があります。誰でも自由に楽しむことができます。

ドライバークの休憩所などとして広く利用されています。

十二滝



泉境、七色地区の国道168号線沿いに、十二滝と称する滝があります。ハイカーやドライバークが、しばしの癒いを求めるのに格好の場となっています。

熊野参詣道 小辺路を歩く

真言宗の総本山である高野山と熊野三山(本宮・新宮・那智)を結び熊野本宮への最短路である熊野参詣道小辺路は、紀伊半島の山岳地帯をほぼ一直線に縦断する峠越えの道で、距離にして約70kmあります。十津川村内延長は約25kmです。道中には、豊かな自然が今も手つかずで残り、熊野参詣道の中でも、往事を憶ふにはこの道が最高との評もあります。また、熊野参詣道小辺路は、平成14年8月18日に「道志百道」に選定されました。



2 伯母子峠



大股の集落を抜けて植林の道を通る傾斜のきついつづら折りの道を約1時間ゆっくり登ると荒小屋跡です。さらに約50分登ると松峠です。夏虫山(1349m)を右手に見ながら緩やかな道を進んでいくと、木の間に伯母子峠が姿を現します。やがて渡摩壇山、伯母子峠、伯母子峠に分かれる十字路にさしかかります。小辺路は伯母子峠を通らず、左の道を伯母子峠に進みま



すが、伯母子岳山頂へは、十字路を直進して約20分です。山頂からは、北西に夏虫山、南に針尖岳、遠くには果無山脈、西に渡摩壇山、東には、山上ヶ岳、釈迦ヶ岳、玉置山などの大釜の山々を眺望できます。また、伯母子峠からも約15分登山頂に登ることができ、伯母子峠から南へ下るとやがて道の右手に旅籠跡の石垣が残る上西路があります。さらにゆるやかな下り道を県道川津高野線と合流するまで進み、三田谷橋を渡って三浦口へ向かいます。

1 高野山～大股



ケーブル高野山駅からバスで約12分の千手院橋で下車し、金剛三輪院へ歩くと、そこから熊野参詣道小辺路の道中が始まります。林道をろくろ峠まで登り、平坦な道を静かに向かいます。そこから古道を大滝へと下ります。大滝集落を見下ろす坂の途中には、ひつそりと道標が立っています。御殿川に架かる橋を渡って大滝集落を通ると、高野龍神スカイラインを龍神方面にしばらく歩くと奈良と和歌山の県境に位置する水ヶ峰の分岐点です。「熊野参詣道小辺路街道」の案内図に従って古道へ入り、林道を少し進むと右手に休憩所があります。ちょうど昼食を兼ねて休憩するには便利な東屋です。龍神を祀る平辻を過ぎ、植林の中を何度か古道と林道を繰り返して下ると、川原瀬川に架かる大股橋の前に出られます。橋の対岸が大股の集落です。

3 三浦峠



かつて神納川には、渡し舟があったといわれ、神納川にかかる吊り橋(船渡橋)を渡る標高差700mの三浦峠へ長い登り道の始まりです。杉の中の坂道を登ると三浦集落に至ります。この周辺には石畳の古道が良好な状態で残っています。しばらく急坂を登ると順石「二十五丁」があり、さらに登ると順石「三十丁」と道標を兼ねた石地蔵が並んでいます。緩やかな坂を登るとようやく三浦峠に到着です。三浦峠を南に下ってしばらくすると古矢倉跡があります。さらに尾根にそって下ると今西と大谷との辻にも道標を兼ねた地蔵、すぐかうや道、右左(産道)が祀ら





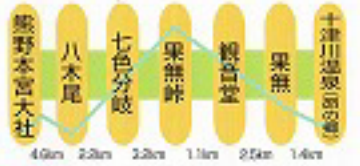
熊野参詣道 小辺路

熊野三山(本宮・新宮・那智)を中心とする熊野信仰は平安時代から始まり、三山へ向かうルートが賑わいました。幾つかの道がありました。十津川村を通っていたのは五條から南下する西熊野街道と、高野山から始まり野道田村を過ぎて西熊野街道に合流する高野・熊野街道で小辺路とも呼ばれています。果無峠の北には石仏が並び、仕事を指示することができます。



▲熊野三山(本宮・新宮・那智)を中心とする熊野信仰は平安時代から始まり、三山へ向かうルートが賑わいました。幾つかの道がありました。十津川村を通っていたのは五條から南下する西熊野街道と、高野山から始まり野道田村を過ぎて西熊野街道に合流する高野・熊野街道で小辺路とも呼ばれています。果無峠の北には石仏が並び、仕事を指示することができます。

4 果無峠



コース
 十津川温泉(十津川村)→熊野本宮大社(本宮町)
 距離: 15.0km 所要時間: 約7時間
 八木尾→熊野本宮大社までは、JCTが設置されています。
 距離、所要時間は目安の数値です。

果無峠から果無峠登山口までは、梅本橋を
 行くルートと吊り橋を渡る2ルートがあり
 ます。特に梅本橋ルートは、途中車に
 十分気を付けて、スタートから1、468m
 地点までの登り道はきついもの、呑むし
 た石段が続く熊野参詣道の風情が漂います。
 そこから観音堂を経て果無峠までも登り
 ますが、木の階段もあり整備されています。
 時々振り返ると扇の郷や、遠く野道川
 村方面の山々も一瞥できます。西国三十
 三カ所観音堂場の石仏が道中見守ってく
 れています。本宮町や熊野川を眺めながら
 本宮町八木尾まで下ります。



イラストマップ中心部は、梅本橋を基準としています。

CONTENTS

十津川村MAP

橋のエリア

水のエリア

果のエリア

花のエリア

畑のエリア

紀伊山地の雪場と参道

近畿自然歩道ウォーキングマップ

十津川村四季彩祭

十津川村特産品

十津川村詳細地図

源泉かけ流し温泉

十津川村は、「豊かな緑」「清らかな溪流」「歴史ある古道」そして「ほんものの温泉」を有しております。
また来なくなる十津川村を目指し、より安全でより清潔でより新鮮なエネルギーを提供致します。
どうぞ「ほんものの温泉」にゆつくりと浸り、身も心も癒してください。

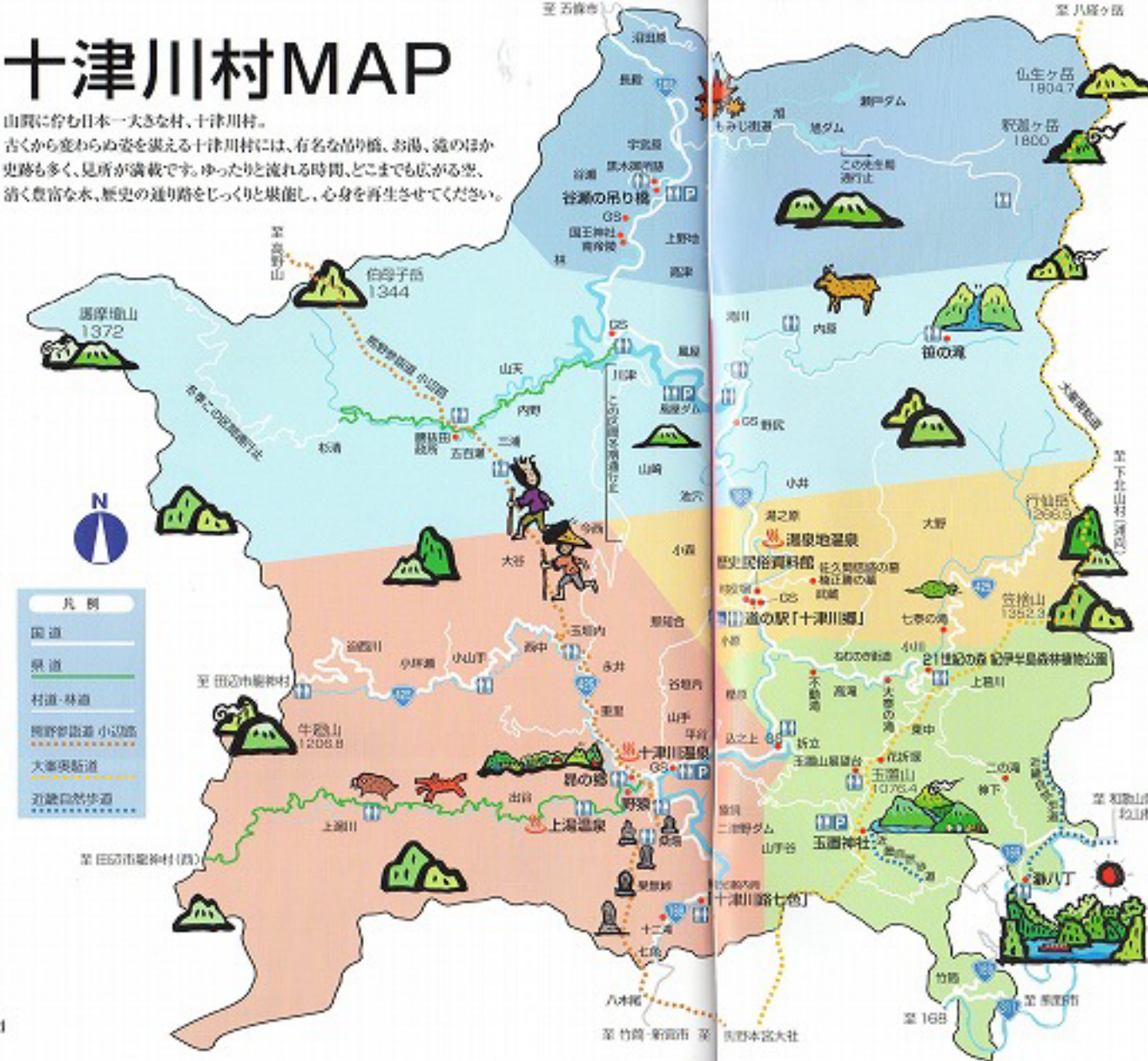
十津川村は、和歌山・三重両県に接する奈良県最南端、紀伊半島のほぼ中央に位置し、森林と水資源に恵まれた村です。大きさは東西33.4km、南北32.8km、面積は672.85km²で、奈良県全体の約5分の1を占め、村としては日本一の広さを持ち、その95%が山林です。



十津川村MAP

山間に佇む日本一大きな村、十津川村。

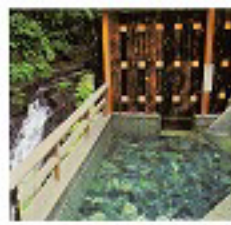
古くから変わらぬ姿を伝える十津川村には、有名な吊り橋、お湯、滝のほか史跡も多く、見所が満載です。ゆったりと流れる時間、どこまでも広がる空、清く豊かな水、歴史の通り路をじっくりと堪能し、心身を再生させてください。



橋のエリア



水のエリア



集のエリア



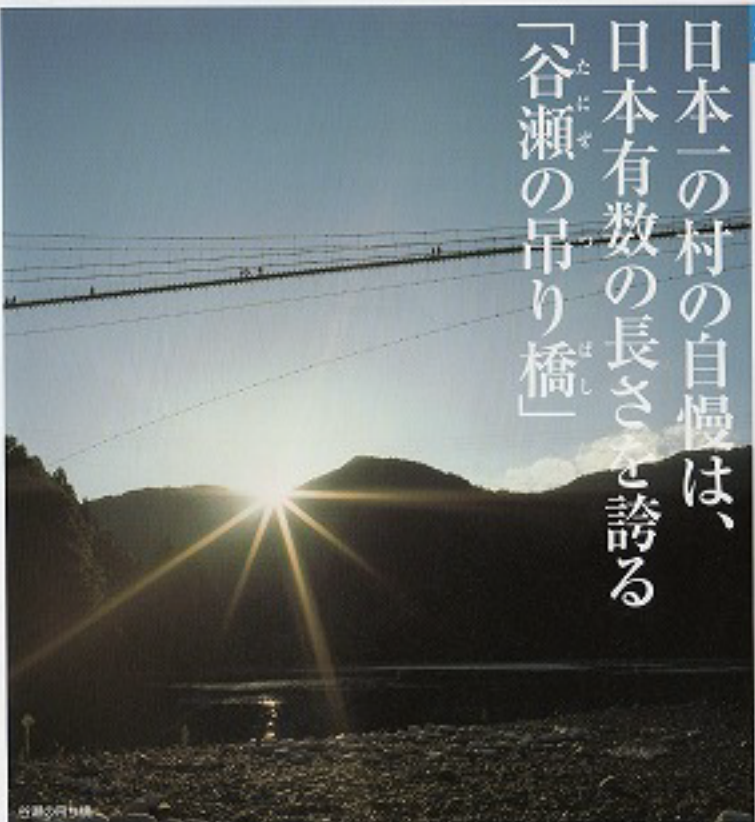
花のエリア



憩のエリア

※37-38ページに詳しい地図が載っています

日本一の村の自慢は、 日本有数の長さ誇る「谷瀬の吊り橋」

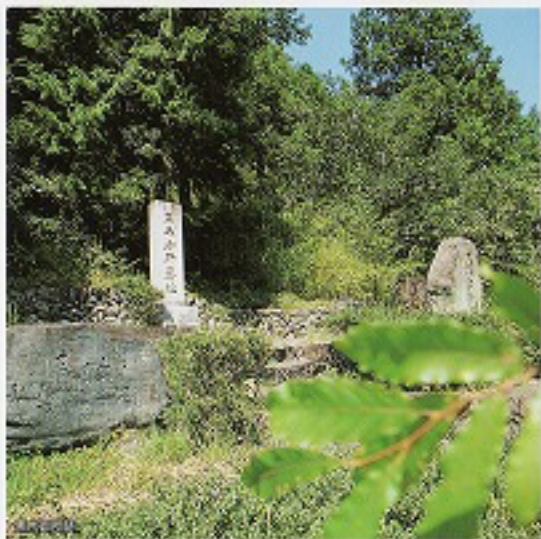


谷瀬の吊り橋



黒木御所跡碑
1333年の秋、倒幕を企てた第96代後醍醐天皇の第三皇子、大塔宮義良親王は、難を避けてしばらく十津川郡に身を留められました。この時、十津川郡民は、谷瀬に仮の御

殿を建て、親王をお守りしたといわれています。その後、親王は、尊氏の弟直義により害され、28才の生涯を終えましたが、1905年、郷民によって谷瀬に「黒木御所跡地」の碑が建てられました。



南帝陵

上野地より国道168号線を南へ約2km、河津の国道下に第98代長慶天皇を葬ったとされる南帝陵があります。南北朝時代、南朝の長慶天皇が北朝勢に十津川の上流天ノ川で一命をおとされ、その御遺骸は天ノ川に流されました。下流の河津では郷民がその御首を川底から発見し、手厚く葬られたと言われています。

田王神社

南帝陵の下、河原近くにある田王神社には、長慶天皇をお祭りしてあり、「田王神社」の神額は大久保利達公の揮毫によるものです。例祭は、毎年古例に則り行われ、祭りは上野地より境内に行列をつくって練り込み祭式を挙げます。(P.32参照)



もみじ街道は、国道168号線から旭川沿いに、旭ダムへ向かう約8kmの道のり。みずみずしい緑の葉が、紅く色付き始める11月初旬、村中がたっぷり秋の空気に変わります。この道をずっと東へ進むと、釈迦ヶ岳登山口。秋のハイキングシーズンには、旭元ばかりでなく各地からの登山者の歩みに彩りを添えます。



秋の色彩大巻の道は、旭川沿いに、旭ダムへ向かう約8kmの道のり。みずみずしい緑の葉が、紅く色付き始める11月初旬、村中がたっぷり秋の空気に変わります。この道をずっと東へ進むと、釈迦ヶ岳登山口。秋のハイキングシーズンには、旭元ばかりでなく各地からの登山者の歩みに彩りを添えます。



標日本百名山 釈迦ヶ岳

「釈迦の富士山 海中に見ゆ」

(古野郡 山田町)

標高1800m。釈迦ヶ岳は大峰山系の山上ヶ岳。山頂から続く雄峰のひとつ。山頂から優美な姿を湛える銅製の釈迦如来像は、大正の強力「オニ薬」こと岡田雅行が一人で担



日本の滝百選、笹の滝

笹の滝は、国道168号線旭川より東、約12km 深谷美穂かな濁川の上流にあります。落差約32m、しぶきをあげて流れ落ちる滝そのもの姿も

さることながら、滝壺より溢れ出て、白くならぬかな岩肌を洗う流れも又二見の価値があるでしょう。草木、天誅網の竹林先平行は、風屋から流

川をさかのぼり、花畑を通り、嫁越峠を越えて、北山郡白川に出ました。先ずは、笹の滝を過ぎるとき、小箕滝と題して、世にしらぬ。あわれを乞ひて、しぐるらん。小箕の滝の 在明の月と詠みました。

姿で山深き深流の奥で清く冷たい瀑布を見せられます。この笹の滝は「日本の滝百選」の一つに、またこの滝を上流とする濁川深谷の水は、県内別カ所の「やまとの水」の一つに選ばれています。



豊富な水量を誇る十津川村、
山歩きをすると必ず、
湧き水に出合うでしょう。



三里山の水



石井の水



大野の水

自然の恵み
街道沿いのオアシス
日本でも最も雨の多い地方のひとつとして知られている奈良県南部に位置する十津川村。山歩きをすると必ずと言っていいほど湧き水を見つけることができるでしょう。水に恵まれた十津川ならではの自然の贈り物です。

「自然の山水に接してもらいたい」という思いから、幹線道路沿いで水量の多い湧き水を、汲みやすく整備したのが、三里山の水、大野の水、白口の水の三つの湧き水です。
※飲むときは必ず清潔さしてから飲んで下さい。



風船社船場
風船ダム貯水池の畔に、国産船の必要水準に
自動車が整備されました。ボートを使用する方
のみなさまに利用されています。

営業時間 AM5:00~PM6:00
料 金 1回乗込 ¥1,500(普通乗)
¥2,500(1日乗入)
お問い合わせ 090-5128-2097

風船社船場



風船社は明治の土木事業によって建設し、
現在は、歴史博物館のままに公開されて
いる。

腰掛田

南北朝の頃、北朝方から逃れた大塔宮護良親王が十津川郷に難を避け、五百瀬を通りしようとした際、荘司に行く手をさえぎられました。道行を認める代わりに「家来か錦の御旗を置いて行け」と要求された宮は、止むなく錦の御旗を置いて行きました。その後、行に遅れた家来の村上彦四郎が荘司の前に錦の御旗を見付け、怒って荘司の家来を水田の中に投げとばし、錦の御旗を奪い返しました。その時投げとばされた家来が、腰を抜かしたので、その田を腰抜田というようになりました。

政所

五百瀬小学校近くに山家では珍しく格式のある表門をもつ家があります。政所と呼ばれ、この地方で最も古い建物といわれています。棟札には享保十乙巳年(1725)と記されており、表門は茶院門形式で嘉永六年(1853)奉修観となっています。1989年、主屋・表門・棟札が県指定有形文化財になりました。平藤盛伝説によれば、小松姓を名乗る藤盛の子孫が、平家の宝刀小烏丸を代々伝えて住んで、いたといわれますが、明治になって没落、宝刀の行方も、家傳散と共にわからなくなりました。





2008 10月撮影

歴史資料と民俗史料の宝庫 十津川村 誇り高い十津川村の伝統と文化財を 垣間見てください。

歴史民俗資料館

昭和56年5月にオープンした「歴史民俗資料館」は、役場前にあります。二階では、十津川出身の著名人として、明治維新前後から5人の人物、そして詩人・野長瀬正夫氏に関する資料を展示しています。また、明治の大水害コーナーでは、当時の災害の模様と復興を題材に描かれた箱谷幸二画

伯の原画「十津川に昇る太陽」が見逃せません。二階では、天誅組・十津川郷士の資料や、国の重要文化財を展示しています。十津川村が神武天皇の御東征から明治維新において果たした役割はきわめて大きく、数々の有形無形の文化財や貴重な文庫は、村の伝統文化を知りたい、たくさん手掛かりになることでしょう。



石大崎の墓所 横江の墓所

歴史民俗資料館
〒690-0099
AM10:00～PM6:00
(入館料PM4:00まで)
観覧大観望台
入館料 大人300円/小人150円
TEL.0746-62-0127

十津川村教育資料館
〒690-0000
4月～10月まで
9時～16時
AM10:00～PM4:00
入館料無料

十津川村教育資料館

昭和45年の学校統合により廃校となった旧武蔵小学校が、平成7年に十津川村有形文化財に指定され、翌年12月、「十津川村教育資料館」として開館しました。複式教室などの複元(教室や教員資料)が展示されています。

十津川村の旅のオアシス 「伝習館・道の駅「十津川郷」

伝習館・道の駅「十津川郷」は、伝統民具を展示した「むかし館」をはじめ、特産品販売コーナーや観光案内所などを設けた複合施設です。二階は、観光案内や喫茶コーナー、特産品・地元野菜などの販売所があり、喫茶コーナーでは美しい風景が見える窓邊で、コーヒーを楽しむことができます。



道の駅「十津川郷」
営業時間 AM10:00～PM5:30
TEL.0746-62-0000
そば館「行徳」Cafe
営業時間 AM11:00～PM2:00

むかし館(地下1階)
営業時間 AM10:00～PM5:00
(入館料210円/200円)



むつと十津川を知る
むかし館(地下1階)
むかし館では、現在使用されていない山道具や後の模写などを展示し、音と映像の「からくりシアター」で四季折々の十津川を表現。十津川方言で紹介しています。十津川村独自の文化と、ここに営まれてきた先人の生活の知恵を知ることが出来ます。

探れて♪郷の味が
いっばい
ふるばい朝市
道の駅「十津川郷」二階の伝習館では、毎月日曜日・朝市(朝7時から「ふるばい朝市」)が開かれ、十津川の農産物などが販売されています。

楠正勝の墓所

楠正勝は、南朝の忠臣楠木正成公の孫で、忠無難の元相ともいわれています。金剛山千早城落城後、弟の正元と共に来郷、武蔵においで再挙を図りましたが病に倒れ、この地に葬られたといわれています。明治時代、那人達が境内を整備し、追悼祭が行われた武蔵では、毎年4月3日に祭典を営み、その宴を唱っています。武蔵にある楠正勝の墓所は、村の有形文化財です。

佐久間信盛の墓所

村の有形文化財で、楠正勝の墓所の後方にあります。佐久間信盛は、織田信長に三十年余を仕え、信老と呼ばれました。「信長公記」によれば、信長は無益な策の罪により、信盛を天正八年(1580)高野山に追放。その後高野山金剛峯寺小坂坊に身を潜めた信盛に、信長から「高野山に住むこと叫ぶべからず」という命令が下り、吉野の奥、十津川山中武蔵の里に落ちたといわれています。天正十年(1582)福原地温泉で湯治中に没し、武蔵に葬られました。

